

くすね
「楠根ため」
これまでの経緯

- ブラックバスが放流される
- 平成17年 事前調査・第1回池干し
- 平成18年 アブラボテ・ヨシノボリ放流
- 平成19年 魚類・二枚貝類調査
- 平成20年 アブラボテ放流
- 平成21年 仔稚魚調査
- 平成22年 再びブラックバスが放流されたことによる第2回池干し

「楠根ため」のある周辺一帯は、平成17年「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」として国の天然記念物に指定されています。豊かな自然環境に囲まれていながら、当時の楠根ためには、持ち込まれたと考えられるブラックバスの影響が深刻な問題になっていました。事前調査によると、池にはタナゴ（アブラボテ）も見つかりましたが、その数はわずか十数匹という危機的な状況でした。

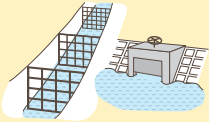
池干しとは

池の水を抜き、底に堆積した「ヘドロ」を干して酸化させ「いいドロ」に戻します。1ヶ月程度干した後、水を入れかえることにより、水質をよくします。土砂の流入、堆積により生き物がすみにくくなった環境を改善する効果があります。

またブラックバスなどの外来種を駆除して、在来種の生息環境を保全します。

池干しのしかた

イラスト よしいあや

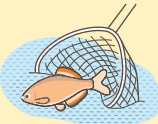


1 水路の網はり・ため池の水抜き

水門を開いてため池の水を抜きます。大きさの違う魚が違う場所の網にひっかかるように、網の目をだんだん小さくしていきます。外来魚が下流にいかないようしっかり網をはります。

2 魚とり

たもアミなどで魚をとります。水を少し残すので、そこに魚があつまります。



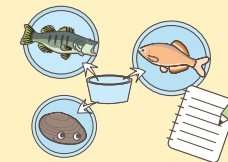
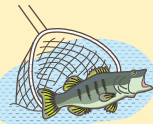
3 その他の生物の救出

その他の生き物たちをたすけます。二枚貝はどろの中にうもれているのでさがします。



4 外来種の捕獲

池にいた外来魚をとりとくします。



5 生き物のしわけ・記録

いろいろな種類の生き物を、きれいな水を入れたタライにわけて入れます。在来種と外来種をきっちりとわけて入れることが大事です。

池にいた生き物の種類と数などを記録します。

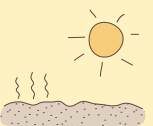
6 在来種の避難

池を干している間、在来種の生き物たちは地域の避難池で保護します。



7 池を干す

池を干して乾かし、「ヘドロ」を「いいドロ」に戻します。水を入れかえると、池がきれいになります。



8 在来種の復元放流

みんなできれいにした池に、生き物たちを戻します。



魚類の研究をしている北島さんは、池干しによる楠根ための環境保全を周囲に提案しました。これをきっかけに「東海タナゴ研究会」を発足し、初めての池干しを実施しました。

このときに捕獲されたブラックバスは千匹以上。食害の影響が大きく、在来種はあまり見つかりませんでした。そして、これから楠根ための生物多様性の復元活動が始まります。



①「楠根ため」は、湧水を利用して明治時代につくられたため池。「全国ため池百選」に選ばれている。
②池干しで捕獲されたブラックバス。在来種が食べられたり、すみかを奪われたりして、生態系に大きな影響を与えることがある。

外来生物被害予防三原則

- 入れない**
悪影響を及ぼすかもしれない外来生物をむやみに日本に入れない。
- 捨てない**
飼っている外来生物を野外に捨てない。
- 拡げない**
野外にすでにいる外来生物は他地域に拡げない。

外来生物法

平成17年に施行された法律で、「特定外来生物」は飼育したり、他の場所に移動させるなどの行為が禁止されています。違反した場合、罰則が課せられます。被害を及ぼしていたり、及ぼすおそれがある「特定外来生物」については、必要に応じて防除（駆除）を実施することとされています。



フナを食べるブラックバス（オオクチバス）

北アメリカ原産の魚。日本では釣り用として拡がった。肉食魚で魚や水生昆虫など、多くの水生生物を食べています。